

「ガラス産業連合会第6回ガラス技術シンポジウム」 参加報告

(社)ニューガラスフォーラム

Report on the 6th Glass Technology Symposium sponsored by GIC

1. 経緯

ガラス関連6団体（板硝子，硝子繊維，電気硝子，硝子製品，ガラスびん，ニューガラス）からなるガラス産業連合会（Glass Industry Conference）の大きな役割は，共通する技術課題のフォローです。ところで，ガラス技術の交流が，特に，学界と産業界の間で不足しているとの反省から，6年前に「ガラス技術シンポジウム」を開始しました。具体的には，二日間にわたる日本セラミックス協会ガラス部会主催の「ガラスおよびフォトニクス材料討論会」の



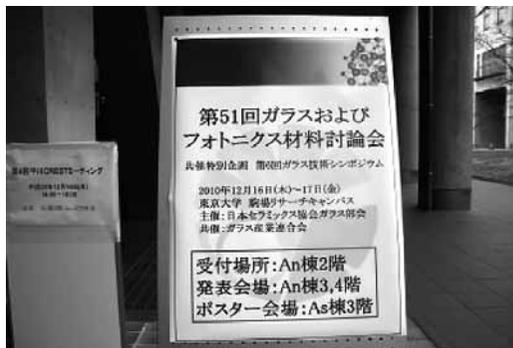
駒場キャンパスII（生産技術研究所）

〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-21-16
TEL 03-6279-2605
FAX 03-5389-5003
E-mail : uesugi@ngf.or.jp

初日にGICの講演会を組み込んでもらい，また，ポスターセッションにもGICテーマで参加しています。初回の滋賀県立大学以降，東京理科大学，豊橋技術科学大学，東北大学，京大と巡って，今回は，12月16日（木）に東大駒場生産技術研究所で開催しました。

当日の参加者は199名で，講演会の冒頭に萩原太郎 GIC 運営・技術委員長（HOYA 執行役員）から挨拶がありました（写真）。

当フォーラムでは，丸山勉企画部長がGICシンポジウムの事務局を担当して，ポスターセッションでは，30万ガラス種類の屈折率等の物性値を収蔵する当フォーラムのガラスデータベース「INTERGLAD Ver.7.1」と，GICのガラス研究者104名のダイレクトリーを展示しました。



講演会会場 A n 棟

2. 講演テーマと講演者

講演のテーマは、初回が「ガラスの破壊・強度」、次いで「環境とガラス」、「環境負荷の低減に向けて」、「ガラスと表面」、「エネルギーとガラス」と続けました。今回は、上堀徹 GIC ガラス技術シンポジウム WG 主査(旭硝子)から講演テーマ「リサイクル技術とガラス」に関する概要説明があり、次の5つの講演が行われました。①「ガラスびんリサイクルの現状と課題」(ガラスびんリサイクル促進協議会・幸智道氏) ②「板ガラスのリサイクルの現状と課題」(板硝子協会・旭硝子工藤透氏) ③「フラットパネルディスプレイのリサイクル」(都立産業技術研究センター・小山秀美氏) ④「鉛を含むブラウン管ガラスのリサイクルの現状と課題」(産総研・赤井智子氏) ⑤「FPD・CRT・蛍光管等からの有用金属・ガラスのリサイクル」(芝浦工大・本間哲哉氏)。

ポスターセッションでは、GICからは、次の会社・大学・団体が参加しました。(1)芝浦工大、(2)パナソニックエコテクノロジーセンター、パナソニック、(3)プラスチック処理促進協会、(4)日本板硝子、(5)日本電気硝子、(6)東洋ガラス、(7)ポニー工業、アール・アンド・イー、日本エリーズマグネチックス、(8)岡山大院環境、岡山大環管セ、(9)ガラス再資源化協議会、(10)浜田、(11)丸美陶科、(12)クリスタルクレイ、(13)ニューガラスフォーラム



萩原太郎／G I C 運営・技術委員長挨拶

3. 余話

会場の東大生産技術研究所は、渋谷から出ている京王井の頭線「駒場東大前駅」で下車して、10分ほど歩いた閑静な住宅地にあります。この駅に降り立つのは、本当に久しぶりでした。駅の出口を出ると真正面、それも僅か50メートルほどの所に東大教養学部の門があり、その奥には旧制一高時代の時計台がそびえ立っています。それを目にするると45年前の合格発表の記憶がよみがえりました。今も昔も試験は文京区本郷で行われています。しかし、発表は、今は本郷の構内で昼間に行われますが、当時は、夜に目黒区駒場の教養学部に張りだされました。線路に沿った掲示板に、理科I類4860番とライトに浮んでいた数字を今も覚えています。駒場には、キャンパスIとして教養学部が、キャンパスIIとして生産研があります。今回の会場は後者です。さて、線路わきの細いアスファルト道をただらと電車の進行方向に下った後、屋敷や高級マンションが続く道をしばらく歩くと、突如、8階建ての巨大ビルが目飛び込みます。この“航空母艦”のような巨大ビル(写真)の隣のビルが今回のシンポジウムの会場でした。付近の風景を一変させているビルを目の当たりにして、よくぞ建設されたなあと単純に思うとともに、このビルの出現に住民の方はさぞやビックリしたことであろうと、これもまた単純に思いました。



ポスターセッション風景